

ノンフィクション／人文(近代史)／格闘技ご担当者さま

ボクシングと大東亜

乗松 優
Suguru Norimatsu



東洋選手権と戦後アジア外交

定価：本体2200円＋税

忘羊社 四六判上製・320ページ

2016年6月下旬刊

テレビ史上最高視聴率96%!

復興期の日本を熱狂させたボクシング興行に、見果てぬアジアへの夢を託して集った男達の実像に迫る、もうひとつの昭和史。

鉄道王・小林一三の実弟にして「聖地」後樂園を率いた国粋主義者、稀代のフィリピン人興行師と共に暗躍した元特攻ヤクザ、キリスト者として平和の架け橋となった東洋王者、メディア王・正力松太郎、そして昭和の妖怪・岸信介。東京からマニラ・ホノルル・沖縄まで、各地の関係者の証言や資料をもとに、大戦中100万人以上が犠牲となったフィリピンとの国交回復をめぐる葛藤と交流の軌跡を描く。

「1950年代に日比(日本ーフィリピン)選手間で争われた東洋選手権のうち、半数以上の試合が5000人を超える観客動員数を記録している。1955(昭和30)年、日本テレビの中継による白井対ペレスの世界フライ級リターンマッチが、テレビ史上の最高視聴率96.1%を記録したように、ボクシングは文字通り、日本国民挙げての一大関心事だった。戦争犯罪が裁かれ、賠償交渉が難航している最中に全盛期を迎えた東洋選手権は、時代の端境期に咲いた徒花のようであった。ただし、季節はずれの花が実を結ばないのとは違って、東洋選手権は日本政府ですら手が着けられないほど傷ついた信頼回復に、民間レベルで寄与した」(本書「序章」より)



1953(昭和28)年8月8日、兵庫・甲子園プールに約5千人のファンを集めて挙行された比国戦犯釈放感謝試合の前夜祭。

今年は日比国交回復60周年!
本年1月、天皇皇后夫妻が現地を訪問。
タイムリーな時期のニュースとして
新聞等での紹介が期待されます!

乗松優(のりまつ・すぐる)・・・1977年、愛媛県松山市生まれ。九州大学大学院比較社会文化学府修了。博士(比較社会文化)。現在、関東学院大学兼任講師。専攻：スポーツ社会学、カルチュラル・スタディーズ(文化研究)

忘羊社	注文	日付	ご担当	ISBN978-4-907902-11-7 C0095
	冊		様	ボクシングと大東亜 本体 2,200 円＋税
	冊	既刊	花田清輝批評集 骨を斬らせて肉を斬る	定価 1,700 円＋税
福岡市中央区大手門1-7-18-901 電話 092(406)2036				

ご注文はFAX:092-406-2093まで